

# ふるさとわがまちづくり

## カ石町自治区

### ◆交通の要衝にあって

当自治区は、かつては戸数77戸を数えたが、その後集合住宅の移転などで減少し、現在は、総数60戸ほどのこじんまりとした佇まいの集落です。

名古屋―塩尻を結ぶ国道153号線の要衝にあって、行き交う車の数は、増加の一途をたどっています。特に昭和47年に「猿投グリーンロード」が開通してからは、春・秋の観光シーズンには、153号線に繋がるありとあらゆる道路から、それこそ、溢れんばかりの車が押し寄せるため、地元住民の往来さえままならぬ有様です。

こうした、交通往来の激しい地域ですが、当自治区では秋の白山社の例大祭を始め、地藏堂祭り、薬師祭り、弘法祭り、山の講などの伝統的な行事が大切に継承され、里人の素朴な営みの中に生きています。

### ◆ホタルの保護活動

153号線に沿って流れ下るカ石川は国の1級河川です。流れの絶えることのない清流には、貴重な水生生物が棲み、特にゲンジボタルは、毎年、河川敷に生い茂る葦の葉陰で羽化し、幻想的な光の乱舞が道行く人々の目を引き付け、心を癒してくれます。

しかし、近年、蛍のエサとなるカワナなどの巻貝を大量に捕獲して持ち去



る心無い人達のために、年々、その数が減り続けてしまい、里人の心を痛めていました。

そこで、平成15年度から、区民を挙げて蛍の育成に立ち上がりました。まず、県知事の許可を得て看板を立て、エサとなるカワナなどの保護育成活動に取り組んできました。

また、「春・夏の河川美化活動」時は、蛍羽化の支えとなる葦の刈り取りには、環境美化部会が計画を立て、充分意を注いで清掃活動しています。

この取組みが徐々に実り始め、「ゲンジボタル」の姿が増え始めていると、区民の間で嬉しい話題の1つになってきました。

こうした自然環境の保護に留意しながらの活動が区民にすっかり定着してきました。



ホタルの保護活動



### ◆全区民の手による自治区運営

全60戸の全区民が年行事の企画から運営までを5つの組単位で実践しています。これは、平成16年度からそれまで、区長、惣代、庶務、会計の4役だけで行ってきた運営を見直し、全区民が自らの手で自治区行事を運営する方法に切り替えたものです。5年を一回り単位として、さらに見直しを図り、より良い運営のあり方を模索していくことになっています。

これまでの役員任せから、自らの手で運営をすることになって、担当の組それぞれの独自のアイデアのもとで実践されるようになり、区民の意識が向上してきました。

#### 【5つの部会】

- 福祉部会（敬老会、健康講座）
- 地域安全部会（安全意識高揚、防犯パトロール）
- 交通安全部会（交通安全立哨、安全意識高揚）
- 親睦部会（日帰り旅行、ふれあい祭り）
- 環境部会（花壇管理、不法投棄監視）

この5つの部会を1年回りで順に担当していきます。各部会には、部長、副部長をおき、部長を中心に全体の意識が統一され盛り上がりを見せていきます。

5年1巡ごとに、全区民で反省を行い、諸々の見直しを行って、新しい運営期間に入ります。平成20年の統計で見る区民の平均年齢が50歳を超えそうな高齢化時代を迎えましたが、老いも若きも共に手を携え合い、知恵と汗を流しあいながら、より住み良い町づくりに取り組んでいます。

### カ石町自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：60世帯  
：67世帯（昭和52年）  
組数：5組  
面積：1.628Km<sup>2</sup>  
自治区たより：「ちからいし」年12回  
回覧：月2回  
ふれあい広場：1箇所  
防犯灯設置箇所：24箇所  
小学校：東広瀬小学校区  
自治区会館：カ石児童館